

平成28年6月28日

府中・生活者ネットワーク  
代表 重田 益美 様

府中市長 高野 律雄

### 市職員の自衛隊研修についての質問に対する回答

- (1) 目的達成のためには、研修先は自衛隊でなくてはならなかったのか。

本研修は、災害時の救援・救助活動への心構えや行動等について実践的に学ぶとともに、協調性、チームワーク、タイムマネジメントなど、3年目職員として身に付けるべき意識や能力の再認識及び職員間の連帯意識の醸成を図ることを目的としています。

研修先として、消防や警察も考えましたが、宿泊を伴い、多数の職員を一堂に受け入れることが困難であるという実情がありました。

航空自衛隊府中基地はこれらの条件を満たすことができ、かつ協力をいただけるとの回答も得られたため、実施を決定しました。

- (2) 職員は事務職、技術職、保育士職など、求められる職務内容が異なるが、一括して行う意義についてうかがいたい。

本研修の目的で触れていますが、本研修は、災害時の救援・救助活動の他に、3年目職員として身に付けるべき意識や能力の再確認及び職員間の連帯意識の醸成を図るために実施するものであるため、職種や職務内容に関わらず実施することが必要であると考えています。

- (3) 災害時の訓練も必要であったということであるが、行った内容を教えてほしい。

実践演習として、初期消火訓練（放水）、負傷者の担架搬送、ロープワーク、衛生教育（止血法、応急手当）を行いました。また、災害時に必要な装備について説明を受け、災害時への備えについて意識を高めました。

その他、災害時の野外炊飯を見学し、安全な食事の提供方法等を学びました。

- (4) 「ゆとり世代」が規律、上下関係を学んでいないとは、どのような状況を指すか。

本市では、報道にある「ゆとり世代」という表現はしておらず、規律、上下関係を学んでいないという認識もしておりません。研修の目的や意義が誤った形で捉えられたことに困惑しています。入庁3年目の職員は今後ますます活躍が期待される年次であると捉えています。

- (5) 結果についての説明が求められると考えるが、どのような結果が得られたか。

職員の感想からは、災害時に組織として行動することが重要であり、そのために一定の規律が必要であることを学んだ、災害時の行動について実践的に学ぶことにより、災害に対する意識が高まった、宿泊を伴う研修であったため、関わりが少なかった同期とコミュニケーションを図ることができ、仲間意識が高まったなどの声が多く届いています。

研修効果は目に見える形ですぐに表れるものではありませんが、職員の感想から、意識改革や連帯意識の醸成に繋がったものと捉えています。

- (6) 目的や意義については、市の公金支出による職員研修全体から是非を判断すべき事項だと考える。今後は、研修全体を市民に公表する考えはあるのか。

職員研修は、本市の人材育成基本方針に基づき計画し、実施をしているところです。また、計画策定にあたっては、他市の状況や、職員の意見等も考慮しながら検討しているため、職員に求められる資質や能力を高めるために必要な研修内容を設定しています。

今後、研修全体を市民に公表する考えがあるかということについては、他の業務とのバランスを考え、検討してまいります。

以上